

mori もりもと moto

おかしはなし

Vol.06 うらしまたろう

「たすけてくれたおれいに
りゆうぐうへごあんないします。
わたしのせなかにのってください。」



Produced by Zero
Picture Book Island



GENERAL BUSINESS
PARTNER
**mori
moto**

むかしむかしあるところに、
うらしまたろうというおとこがいました。

あるひのこと、うみべで、こどもたちがかめを
いじめているのをみつけ、たすけてあげました。

すうじつご、またつりをしていると、

おおきなかめがあらわれ、

「このあいだたすけてくれたおれいに
りゅうぐうへ、ごあんないします。」

わたしのせなかに、のってください。」

おそろおそろ、せなかにのると、

みるみるうちに、うみのなかへ。

さらさらひかる、みずのなか、

いろあざやかなさんごのどんねる。

「わあ、きれい！」

「ここはおどらせていると、

りゅうぐうへ、つきました。」

すると、うつくしい、

おとひめさまがあらわれ、

「ようこそうらしまたさん。」

かめを、たすけてくれて、ありがとうございます。

ゆっくりと、いってくださいな。」

はなやかなうたげに、たいやひらめの、まいおどり、

まるで、でんごくのような、じかんです。

きづけば、さんねんのつきひが、ながれていました。

「そろそろ、いえへかえらなければ。」

かなしそうなかおをした、おとひめさまは、

「こまったときに、これをあげてください。」

「それいがいは、ぜったいあけてはなりません。」と、

うらしまたろうに、

たまたまばこを、わたしました。

かめのせなかにのり、

ちじょうへ、もどると、

みたことのない、けしきでした。

どうやら、このさんねんのあいだに、

ちじょうでは、ななひゃくねんの

つきひが、ながれていたのです。

こまった、うらしまたろうは、

おとひめさまの、いうとおり

たまたまばこを、あげました。

すると、しろいけむりにつつまれて

かみも、ひげも、まっしろの、

よばよばのおじいさんに

なつてしまったとき、 おしまい



sora's profile

北海道を拠点として活動する、絵本作家、イラストレーター。イラストによる絵本、そらが制作したフェルトぬいぐるみを撮影したピクチャーブック、キャラクター開発などを手掛ける。また、自身の絵本による、子どもたちへの読み聞かせやライブペインティング、絵本作家としての講演や、テレビラジオ・雑誌などへの出演などの活動も展開。



うらしまたろうの感想

夏といえば海。海の話といえば、まさきき思い浮かぶのがうらしまたろうのお話です。亀を救ったのに、最後はハッピーエンドじゃない不思議なお話だけど、そんな幻想的なところも、夏にふさわしいように思いました。本当は、うらしまたろうは、亀についてはいけなかったのでは…？夏のお菓子は、竜宮のきらびやかな雰囲気をおぼえ、さまざまな水菓子が登場します。涼を感じるのどごしのよい冷たいお菓子を、おかしばなしを手にとりながらお楽しみいただければうれしいです。



Produced by 2000
Picture Book School



ZEPPONEN ONLINE
PUBLISHING
X morimoto

morimoto

つめたい
おかし

おかしずかん

しこつ ふくりゆうすいじこ
支笏の伏流水仕込み

みず よう かん
水羊羹

<まっちゃや>



<こしあん>

かんてんをにて、かん、
寒天をにて、餡、
砂糖をいれて加熱し、
型に流しかためたもの。
ひんやりとしたみずみずしい
くちどけの夏の代表的なおかし。

もち わらび餅

わらびの根からとれるでんぷん
でつくったことに由来する
なまえ。さつまいもや
タピオカなどのでんぷん
でつくった、きなこや
黒蜜をかけて食べる
ぷるんとした食感のおかし。



〈監修：農学博士 加藤淳〉